

第5章 行動指針

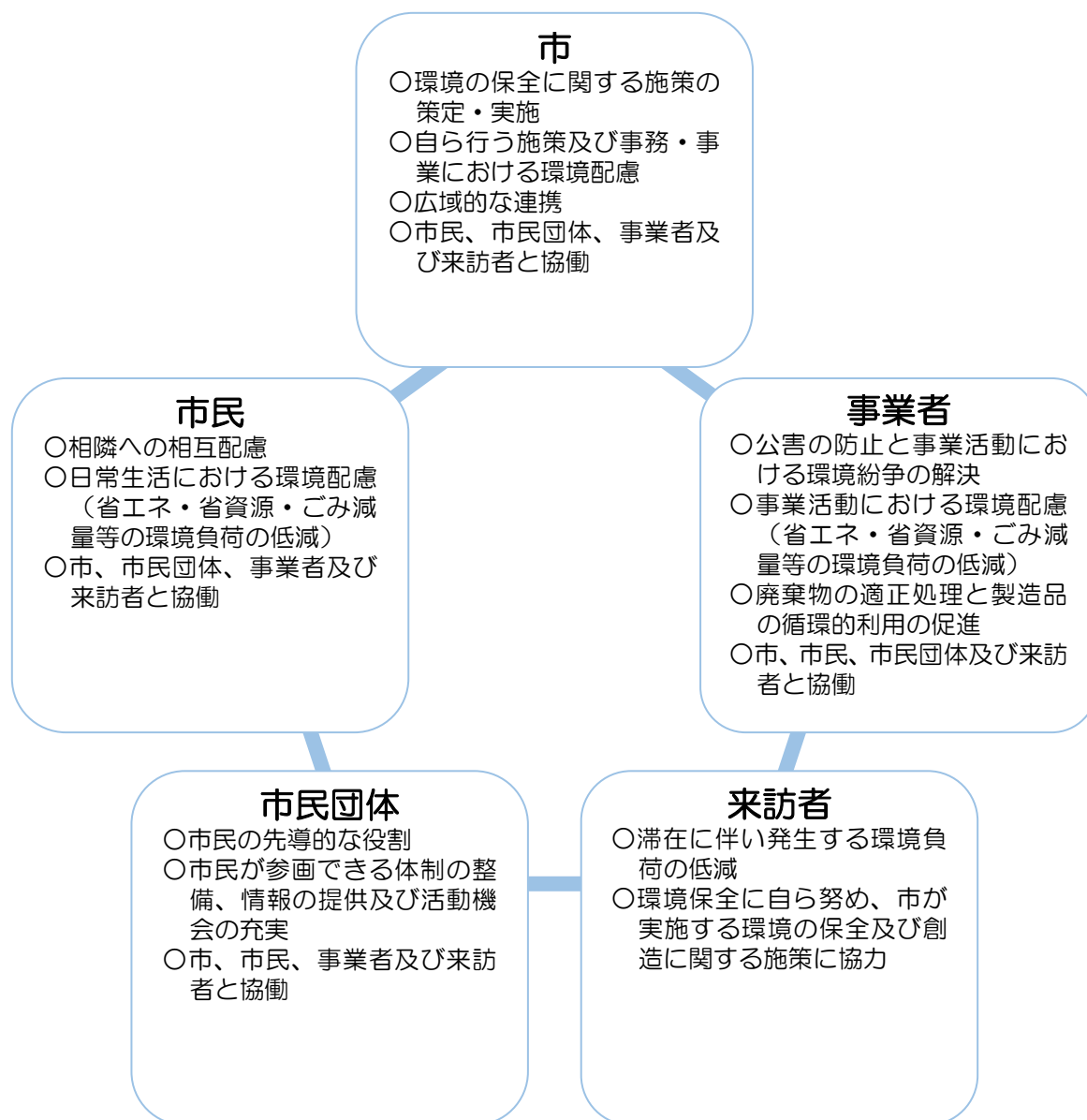
5-1 各主体の役割

環境の保全及び創造に関する取組を推進するためには、市、市民、市民団体、事業者、来訪者それぞれの立場で、日常生活や事業活動における環境への配慮に努めることが必要です。

浦添市環境基本条例では、第3条基本理念において、「全ての者が、それぞれ果たすべき責務の下に公平な役割を有する自覚を持って協働して自主的かつ積極的に取り組むこと。」と定め、市、市民、市民団体、事業者、来訪者の責務を定めています。

また、第10条には、「環境行動指針」を環境基本計画の一部として策定することが義務付けられています。

各主体の行動指針は、市、市民、市民団体、事業者及び来訪者が環境の保全及び創造のために行動する上において配慮することが望ましい指針のことです。



5-2 各主体の行動指針

(1) 市民及び市民団体の行動指針

今日私達は地球温暖化問題をはじめ、廃棄物や緑、公害等様々な分野における環境問題を抱えています。

これらの問題に対する取組として、本計画では、望ましい環境像として「豊かな自然と文化を育み、次世代へつなぐ環境共生都市・浦添」を掲げ、目標や施策を示していますが、解決に向けては、何より市民1人ひとりが、環境のために自らが取るべき行動について理解を深め、環境にやさしいライフスタイルを確立し、実践することが不可欠となります。

ここでは、市民及び市民団体の立場で行う環境配慮事項の例について、「5つの基本目標」ごとに示します。

【市民及び市民団体の主な行動指針】

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 水源地域への植林活動に参加する。 <input type="checkbox"/> 雨水浸透ます等の設置により雨水をできるだけ地下に浸透させるよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> お風呂の残り湯や雨水の活用等、節水に心掛ける。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 緑化の際には、できるだけ郷土種を利用する等、生物多様性に配慮する。 <input type="checkbox"/> 自然を守るボランティア行事に参加する。 <input type="checkbox"/> 生き物に対する理解を深め、その生息・生育環境を大切にする。
環境配慮型 農水産業	<input type="checkbox"/> 家庭菜園を利用する場合、肥料・農薬による周囲への影響に配慮し、適切に使用するよう努める。
自然との ふれあい	<input type="checkbox"/> 川辺のクリーン活動等への積極的な参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 緑地・水辺・海辺・里浜等の人と自然のふれあいの場での、ポイ捨て禁止やマナーを守り、自然環境の保全を心掛ける。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 移動の際、できるだけ自家用車の使用を控え公共交通機関や自転車等を利用するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 自動車を購入する時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。 <input type="checkbox"/> 近隣に迷惑な悪臭やばい煙の発生防止に努める。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 台所では、油や調理くずは流さないようにし、食器の汚れ等は紙で拭き取ってから洗う等、水を汚さないよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 洗剤やシャンプー等は、使い過ぎず適量を守るよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 公共下水道接続または合併処理浄化槽の設置・維持管理により生活排水の適正処理に努める。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 保有車両の自動車騒音発生に配慮した運転を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 相隣関係を豊かにし、生活騒音等でお互いに迷惑をかけないように配慮する。
化学物質	<input type="checkbox"/> 化学物質に関する正しい知識の習得、環境に配慮した商品・サービスの選択による日常生活から排出される化学物質の削減に努める。 <input type="checkbox"/> 周辺の事業者の行うリスクコミュニケーションへの参加、リスク削減に向けた協働に努める。

環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> □ペットを飼う際は、予防注射や放し飼いをしない等の適正な飼養を心掛ける。 □自己所有の空き地、空き家、墓地等は手入れをきちんとし、ハブ・スズメバチ・その他そ族昆虫等が発生しないよう努める。
快適な都市環境	<ul style="list-style-type: none"> □出かける際には、公共交通機関を利用し、パークアンドライドを利用するよう心掛ける。 □市が行う自動車交通対策への協力を努める。 □他の利用者が快適に公園を利用できるようマナーを守るとともに、市と協力して公園の植栽管理やごみ拾いの活動に参加するよう努める。 □地域の美化活動への積極的な参加を心掛ける。 □生垣や壁面緑化等で緑を増やすよう心掛ける。 □良好な街並みを形成するための景観まちづくり活動への参加を心掛ける。 □地区計画や景観計画の遵守に努める。 □身近な公園の管理運営活動や緑の愛護活動への参加を心掛ける。 □街路樹や公園緑地等の身近な緑の維持管理活動への協力を心掛ける。 □緑の保全や公園緑地の整備に関する各種計画づくりへの参画を心掛ける。 □市内の歴史文化的遺産についての理解を深め、その保全・活用への協力を心掛ける。 □地域の伝統行事や文化活動に積極的に参加する。
基本目標3 循環型社会の構築	
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> □買い物袋を持参し、過剰包装やポリ袋の使用の削減に努める。 □商品を購入する際、無駄なものの購入は控え、できるだけ長期にわたって使用できる商品を選択するよう心掛ける。 □紙コップ等の使い捨て商品の使用を控え、再生品や詰め替え製品を優先的に使用するよう努める。 □生ごみはよく水を切るかコンポスト化すること等により、ごみの減量化に努める。 □空き缶、空き瓶、牛乳パック、古紙、乾電池等は適正に分別し、資源の有効利用に努める。 □リユース・リサイクル活動に積極的に参加するよう努める。
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> □ごみはきちんと分別してごみ箱に捨てるようにし、みだりに捨てない。 □野外活動等で出たごみは投棄せず持ち帰る。 □不法投棄をしない、させない環境づくりのため、不法投棄を発見したら市へ通報する。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> □買い物をする前にまずその必要性を十分に考える。 □買い物をする際は、価格・機能・デザイン等の他、環境という視点を加えて、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを購入する。 □事業者の環境活動に関心を持ち、環境負荷の低減に努めている事業者から製品やサービスを購入するよう努める。

エネルギー	<input type="checkbox"/> 電気、水道、ガス等の使用量の削減に努める。 <input type="checkbox"/> 住宅建築時には、断熱材や複層ガラス等による高い断熱性の確保や太陽光を取り入れる設計等、環境共生型の住宅づくりを検討する。 <input type="checkbox"/> 太陽光発電システムや太陽熱温水器等の導入による再生可能エネルギー源を積極的に活用するよう努める。 <input type="checkbox"/> 省エネルギー型の電気製品、ガス器具等を選択するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 冷暖房機器は適温に設定するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 誰もいない部屋の消灯や使用していない家電製品の電源オフ、長期間使用しない家電製品の電源プラグを抜く等、電力消費量の抑制を心掛ける。
基本目標4	地球環境の保全
地球温暖化	<input type="checkbox"/> 地球温暖化対策に関する計画の推進に協力する。 <input type="checkbox"/> エコドライブ等を実施し、日常生活における身近なエコ活動を積極的に実践する。 <input type="checkbox"/> 温室効果ガスの吸収作用やヒートアイランド対策の視点から、庭やベランダ、屋上や壁面等を利用した緑化を心掛ける。
地球規模の環境問題	<input type="checkbox"/> オゾン層の保護、酸性雨の防止等の地球環境問題への知識を深め、日常生活を送る上で地球環境への配慮を心掛ける。 <input type="checkbox"/> ノンフロン製品を選んで購入し、不要になったフロン使用製品は法律に従って適正に処理し、フロン類の回収を必ず実施する。
基本目標5	協働・参画社会の構築
環境教育・環境学習	<input type="checkbox"/> 1人ひとりが身近な環境や歴史・文化、環境問題に対し関心を持ち、学ぶよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 子どもから大人まで環境教育や環境学習の場に積極的に参加し、環境問題についての理解を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 緑地の保全・再生・育成・管理に関する活動への参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 樹林地や農地、川等の身近な自然の観察活動や保全活動への積極的な参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 身近な環境や環境問題について学んだことや考えたことについて家庭や地域、学校等で積極的に話し合い、お互い学びあうよう心掛ける。
自発的な活動	<input type="checkbox"/> 環境に配慮したライフスタイルを実践するとともに、地域の様々な活動への積極的な参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 地域コミュニティ等における身近な環境美化、緑化等への参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 関心のあるテーマの環境保全の活動や団体への積極的な参加を心掛ける。
協働	<input type="checkbox"/> 様々な媒体を通じて環境に関する情報を積極的に収集するとともに、市の環境施策についての理解、協力を心掛ける。

(2)事業者の行動指針

製造や販売等をはじめとする様々な事業活動は、環境へ与える影響が大きなものとなっています。

本計画で掲げる望ましい環境像「豊かな自然と文化を育み、次世代へつなぐ環境共生都市・浦添」の実現に向け、事業者も地域社会の一員として、自らの事業活動に対し積極的に環境に配慮して取り組んでいくことが求められます。

ここでは、事業者の立場で行う環境配慮事項の例について、全ての事業活動に共通する行動と事業分野ごとの行動に分けて示します。

【全ての事業活動に共通する主な行動指針】

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 水源地域への植林活動に参加する。 <input type="checkbox"/> 工場・建物内に雨水・再生水利用システムの導入を努める。 <input type="checkbox"/> 事業の実施に当たっては、水源地や河川の保全に配慮する。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 開発等を行う際は、自然環境及び野生動植物の生育・生息環境への配慮を徹底する。 <input type="checkbox"/> 森林の保全・再生、河川や海の美化活動に努める。 <input type="checkbox"/> 開発等を行う際は、公園・緑地を設けるよう努める。
自然とのふれあい	<input type="checkbox"/> 川辺のクリーン活動等への積極的な参加を心掛ける。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 法律や条例に基づく届け出を行い、大気汚染の排出基準を守る。 <input type="checkbox"/> 有害化学物質の適正な自主管理を行い、使用量削減や管理徹底に努める。 <input type="checkbox"/> 自動車の導入・入替時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。 <input type="checkbox"/> 近隣住民等からの意見や苦情に対応する仕組みを整備し、紛争が生じたときには、誠意をもってその解決に努める。 <input type="checkbox"/> 法律や条例に基づく届け出を行い、悪臭の防止に努める。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 法律や条例に基づく届け出を行い、水質汚濁物質の排出基準を守る。 <input type="checkbox"/> 近隣住民等からの意見や苦情に対応する仕組みを整備し、紛争が生じたときには、誠意をもってその解決に努める。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 法律や条例に基づく届け出を行い、騒音・振動の防止に努める。 <input type="checkbox"/> 近隣住民等からの意見や苦情に対応する仕組みを整備し、紛争が生じたときには、誠意をもってその解決に努める。
化学物質	<input type="checkbox"/> 工場・事業場で取り扱う化学物質は適正に管理・使用し、環境中への排出をできるだけ軽減するよう努める。 <input type="checkbox"/> 周辺住民に対し、工場・事業場で取り扱う化学物質のリスクに関する情報を公開し、リスクコミュニケーションに努める。 <input type="checkbox"/> 近隣住民等からの意見や苦情に対応する仕組みを整備し、紛争が生じたときには、誠意をもってその解決に努める。
環境衛生	<input type="checkbox"/> 自己所有の空き地、空き家、墓地等は手入れをきちんとし、ハブ・スズメバチ・その他そ族昆虫等が発生しないよう努める。

快適な都市環境	<ul style="list-style-type: none"> □大規模開発時には環境アセスメントを行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。 □交通混雑緩和のため、時差通勤、カーシェアリングを推進する。 □従業員のマイカー通勤や業務用車両による通勤を自粛し、公共交通機関や自転車等の利用を推進する。 □市が行う自動車交通対策への協力を努める。 □保全緑地の維持活動への参加等、市が実施する緑化推進への積極的な参加に努める。 □工場や事業場の敷地や建物は、周辺環境との調和を図り、敷地内の緑地確保、屋上緑化や壁面緑化に努める。 □工場や事業場の外観や広告物に配慮し、地域の景観と調和するよう努める。 □地区計画や景観計画の遵守に努める。 □事業計画の策定や事業の実施に当たっては、歴史文化的遺産等との調和に配慮する。
基本目標3 循環型社会の構築	
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> □廃棄物の発生抑制、循環資源の再利用・再生利用に努める。 □生ごみ、空缶、空き瓶、ペットボトル等の分別排出を徹底する。 □不要となった事務機器等の再利用に努める。 □使い捨て製品の製造販売や過剰包装を自粛し、長期間使用できる製品やリサイクルが容易な製品等、環境への負荷が少ない製品の製造・販売・利用に努める。 □事業所におけるゼロ・エミッションへの取組を推進する。
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> □事業系廃棄物は排出者責任の原則により適正に処理する。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> □製品やサービスを調達する前にまずその必要性を十分に考える。 □価格・機能・デザイン等の他、環境という視点を加えて、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを購入する。 □環境負荷の少ない製品やサービスの開発と普及に努める。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □省エネルギー型の生産設備や生産工程の導入等、エネルギーの効率的な利用に努める。 □太陽光、風力等による再生可能エネルギー源を積極的に活用するよう努める。 □工場排熱の利用やコージェネレーションシステムの導入に努める。 □クールビズ、ウォームビズを実践し、空調は適温に設定するよう心掛ける。 □無駄な照明の消灯、OA機器の効率的な利用を心掛ける。 □建物の断熱性の向上や長寿命化に努める。
基本目標4 地球環境の保全	
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> □地球温暖化対策に関する計画の推進に協力する。 □ISO14001 認証または、環境省「エコアクション21」等の環境マネジメントシステムの導入及び推進による組織的な環境改善に努める。 □温室効果ガスの発生を抑えるための低炭素型ビジネススタイルの実践を心掛ける。
地球規模の環境問題	<ul style="list-style-type: none"> □フロン使用製品を廃棄するときは、法律に従って適正に処理する。 □硫黄酸化物や窒素酸化物の排出の抑制に努める。

基本目標5 協働・参画社会の構築	
環境教育・環境学習	<input type="checkbox"/> 社内での環境教育・学習を実施し、環境保全に対する意識向上と普及啓発に努める。 <input type="checkbox"/> 事業所の取組を活かした施設見学会等の環境保全活動の機会づくりに努める。 <input type="checkbox"/> 地域との連携を図りながら、工場や事業所敷地内等でのビオトープづくりに努める。
自発的な活動	<input type="checkbox"/> ISO14001 認証または、環境省「エコアクション21」等の環境マネジメントシステムの導入及び推進による組織的な環境改善に努める。
協働	<input type="checkbox"/> 地域の美化活動や環境保全活動等に積極的に参加するとともに、その活動の支援に努める。 <input type="checkbox"/> 社員の環境保全活動等への取組を推奨し、積極的に活動する社員の支援・評価に努める。 <input type="checkbox"/> 事業所の環境保全に関する取組を公開し、積極的に環境情報の発信を行う。

【事業分野ごとの主な行動指針】

農業	
環境配慮型農水産業	<input type="checkbox"/> 農薬や化学肥料をできるだけ使用しない環境保全型農業に取り組む。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 農地の赤土等が水域へ流出しないよう、防止対策に努める。
廃棄物の適正処理	<input type="checkbox"/> 環境に配慮した資材・機材の使用や農業廃棄物の適正処理に努める。
建設業	
生物多様性	<input type="checkbox"/> 樹林地等の保全に配慮し、動植物の生育・生息環境への影響を最小限にとどめるよう努める。 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した工法を積極的に採用するよう努める。
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 建設機械や工事用車両による大気汚染等、周辺環境に影響を与えないよう努める。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 開発時に赤土等が水域へ流出しないよう、防止対策に努める。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 建設機械や工事用車両による騒音、振動等、周辺環境に影響を与えないよう努める。
化学物質	<input type="checkbox"/> シックハウスの原因となる化学物質を多く含むものは使用しないよう努める。
快適な都市環境	<input type="checkbox"/> 大規模開発時には環境影響評価を行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。
資源の有効利用	<input type="checkbox"/> 建設廃材や残土は、減量化、再利用、適正処理に努める。
グリーン購入	<input type="checkbox"/> 建設資材は、再生品や再利用可能な物を使用するよう努める。

製造業	
水質・土壌	□製造工程における汚染物質の排出抑制、水質汚濁の防止に努める。
騒音・振動	□製造工程における騒音・振動の防止に努める。
グリーン購入	□製品の長寿命化や再使用容器への転換等環境負荷の少ない製品の開発と生産に努める。
資源の有効利用	□製造工程の省エネルギー、原材料の減量化、冷却水の循環利用、資材の再使用、再生利用が可能な資材の活用に努める。
運輸業	
資源の有効利用	□梱包材に使用する資材の発生抑制、再利用、再生利用に努める。
エネルギー	□業務用車両には、電気自動車や最新規制適合車への代替等、低公害、低燃費車両の導入に努める。
地球温暖化	□共同集荷、共同配送システム等による物流の合理化・効率化を図る。 □アイドリングストップの実施等エコドライブに努める。
卸売・小売業・飲食店	
騒音・振動	□深夜営業の騒音削減に努める。
快適な都市環境	□看板、広告塔等の設置の際は、周辺の景観と調和するよう努める。 □過度な夜間照明と漏れ光を控え、光害の防止と良好な住環境の形成に努める。
資源の有効利用	□包装の簡素化やレジ袋の提供自粛等に努める。 □トレーや牛乳パック等の回収ボックスを設置する等、資源循環の取組に努める。 □食品廃棄物の発生抑制、減量化、再生利用を進める。 □店舗で発生する資源の分別排出と回収に取り組む。
グリーン購入	□再生品やエコマーク製品等環境負荷の少ない製品の利用に努める。
その他	
化学物質	□事業場で使用する化学物質を適正に管理・処理するよう努める。 □油類や有害物質等が地下浸透しないよう心掛ける。
快適な環境都市	□看板、広告塔等の設置の際は、周辺の景観と調和するよう努める。
グリーン購入	□宣伝用のチラシやパンフレット等は、再生紙の利用に努める。

(3)来訪者の行動指針

観光や国際交流、活発な事業活動が展開されている本市では、観光旅行や帰省、通勤・通学で一時的に滞在する来訪者による環境への負荷の集積も問題となります。望ましい環境像「豊かな自然と文化を育み、次世代へつなぐ環境共生都市・浦添」の実現のためには、来訪者1人ひとりの環境保全への取組が求められます。

ここでは、来訪者の立場で行う環境配慮事項の例について、「5つの基本目標」ごとに示します。

【来訪者の主な行動指針】

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 水源地域への植林活動に参加する。 <input type="checkbox"/> 節水に心掛ける。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 自然を守るボランティア行事への参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 生き物に対する理解を深め、その生息・生育環境を大切にする。
自然とのふれあい	<input type="checkbox"/> ごみは投棄等せずに持ち帰る。 <input type="checkbox"/> 野生生物の生息地付近で活動する場合は、フィールドマナーを守る。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 自動車の排出ガスを減らすために、移動の際、できるだけ公共交通機関や自転車等を利用するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。
水質	<input type="checkbox"/> 野外活動においては調理油や洗剤等の雑排水は直接川に流さず、川の水を汚さないよう心掛ける。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 運転騒音等で迷惑をかけないよう配慮する。
快適な都市環境	<input type="checkbox"/> 市が行う自動車交通対策への協力を努める。 <input type="checkbox"/> 地域の美化活動への参加を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 街路樹や公園緑地等の身近な緑の維持管理活動への協力を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 緑の保全や公園緑地の整備に関する各種計画づくりへの参画を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 市内の歴史文化的遺産についての理解を深め、その保全・活用への協力を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 地域の伝統行事や文化活動への参加を心掛ける。
基本目標3 循環型社会の構築	
資源の有効利用	<input type="checkbox"/> 買い物袋を持参し、過剰包装やポリ袋の使用の削減に努める。 <input type="checkbox"/> リサイクル製品を積極的に購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 紙コップ等の使い捨て商品の使用を控え、再生品や詰め替え製品を優先的に使用するよう努める。
廃棄物の適正処理	<input type="checkbox"/> 野外活動等で出たごみは投棄等せずに持ち帰る。 <input type="checkbox"/> ごみはきちんと分別してごみ箱に捨てるようにし、みだりに捨てない。
グリーン購入	<input type="checkbox"/> 商品を購入する際、環境への負荷の少ない商品を購入するよう努める。 <input type="checkbox"/> グリーン購入に努め、環境に配慮した商品・サービスを扱う事業者を積極的に支援するよう努める。

エネルギー	<input type="checkbox"/> 電気、水道、ガス等の使用量の削減に努める。 <input type="checkbox"/> 冷暖房機器は適温に設定するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 誰もいない部屋の消灯や使用していない家電製品の電源オフ等、電力消費量の抑制を心掛ける。
基本目標4 地球環境の保全	
地球温暖化	<input type="checkbox"/> 身近なエコ活動を積極的に実践する。
地球規模の環境問題	<input type="checkbox"/> オゾン層の保護、酸性雨の防止等の地球環境問題への知識を深め、日常生活を送る上で地球環境への配慮を心掛ける。
基本目標5 協働・参画社会の構築	
環境教育・環境学習	<input type="checkbox"/> 環境教育や環境学習の場に積極的に参加し、環境問題についての理解を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 川辺のクリーン活動や自然観察会等への参加を心掛ける。
自発的な活動	<input type="checkbox"/> 環境に配慮したライフスタイルを実践するとともに、地域の様々な活動への積極的な参加を心掛ける。
協働	<input type="checkbox"/> 市の環境施策についての理解、協力を心掛ける。

(4)市の行動指針

市は、浦添市環境基本条例に規定する環境政策の理念と基本方針に基づき、望ましい環境像「豊かな自然と文化を育み、次世代へつなぐ環境共生都市・浦添」の実現に向けて本計画で掲げる施策の推進に取り組みます。

また、市は自らも1事業者であることから、省エネルギーや廃棄物の削減、自然環境の保全等、率先して環境負荷の低減に取り組む必要があります。

市の立場で行う環境配慮事項について、「5つの基本目標」ごとに示します。

【市の主な行動指針】

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 事業者に対し、雨水の積極的利用、地下浸透の指導に努める。 <input type="checkbox"/> 事業の実施に当たっては、水源地や河川の保全に配慮する。 <input type="checkbox"/> 工場・建物内に雨水・再生水利用システムの導入を努める。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 緑化の際には、できるだけ郷土種を利用する等、生物多様性に配慮する。 <input type="checkbox"/> 開発等を行う際は、自然環境及び野生動植物の生育・生息環境への配慮を徹底する。
環境配慮型農水産業	<input type="checkbox"/> 農地の保全に取り組む。 <input type="checkbox"/> 農薬や化学肥料をできるだけ使用しない環境保全型農業の推進に努める。
自然とのふれあい	<input type="checkbox"/> 森・川・海辺・里浜等の自然空間の保全と育成を推進する。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 自動車の導入・入替時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場に対して、化学物質の適正管理・適正使用を徹底させ、リスクコミュニケーションに努めるよう呼びかける。 <input type="checkbox"/> 公用車の駐車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 生活排水や事業所排水による水質汚濁防止等の啓発・指導に努める。 <input type="checkbox"/> 市役所内や公共施設において、雑排水を適正に処理する。 <input type="checkbox"/> 開発事業等で赤土等の土壌が水域へ流出しないよう、防止対策に努める。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 公用車の運転時には静かな運転を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 事業所における騒音・振動発生防止の啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 近隣騒音発生防止のための意識啓発を行う。 <input type="checkbox"/> 深夜営業騒音に対する改善指導を行う。
化学物質	<input type="checkbox"/> 公園や緑地等の維持管理のための農薬等の薬剤の使用をできるかぎり削減し、より安全な代替手法の導入を検討する。 <input type="checkbox"/> 公共事業で取り扱う化学物質のリスクに関する情報を公開し、リスクコミュニケーションに努める。
環境衛生	<input type="checkbox"/> 狂犬病予防注射や放し飼い防止等のペットの適正飼養を指導する。 <input type="checkbox"/> 空き地、空き家、墓地等の管理指導と、ハブ・スズメバチ・その他そ族昆虫対策を推進する。

<p>快適な 都市環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> □適正な土地利用が保たれるよう、都市計画に基づく立地規制・誘導に努める。 □不法な個人墓地が乱立しないよう、監視・規制・誘導に努める。 □公共工事において長期使用型の資材、物品や再生品の使用に努める。 □公共施設内の設備等にユニバーサルデザインを採用する。 □大規模な公共事業では環境影響評価を行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。 □公務における移動は、できるだけモノレール等の公共交通機関等を利用する。 □マイカー通勤からバス・自転車・徒歩通勤への切り替えを推進する。 □市民や事業所と連携して、保全緑地の維持やオープンスペースの確保、都市緑化を推進する。 □関係法令や都市計画法を順守し、自然の緑や水辺等を保全する。 □自然や生き物とのふれあいの場の整備に努める。 □施設の敷地内の緑化や、屋上緑化、壁面緑化等で緑を増やすよう心掛ける。 □建築物の建設の際、周辺環境や都市景観に配慮し、良好な街並み形成に努める。 □地区計画や景観計画への継続的な取組を推進する。
<p>基本目標3 循環型社会の構築</p>	
<p>資源の有効利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> □土木工事や建築物の解体時には、大量の建設廃棄物が発生することから、設計段階より建設廃棄物の発生抑制を考慮した計画の策定、再利用の促進に努める。 □不要となった備品等の再利用に努める。 □ごみの分別排出を徹底し、空き缶、空き瓶、古紙、乾電池等の資源の有効利用に努める。 □生ごみの減量化を促すため、普及啓発と堆肥化容器等の購入助成制度を充実する。
<p>廃棄物の適正処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> □環境負荷の低減に寄与するため、安定かつ効率的な廃棄物の適正処理を推進する。 □不法投棄をしない、させない環境づくりのため、監視パトロールの実施、県、警察等関係機関との連携、ホームページ等による普及啓発や不法投棄対策を推進する。
<p>グリーン購入</p>	<ul style="list-style-type: none"> □既存物品等の活用や他部署における余剰物品の有効活用により、調達総量の抑制に努めます。 □物品購入の際には、物品のライフサイクル全般にわたり環境に配慮された製品を選択します。 □工事等の設計や施工に際しては、可能な限り環境への負荷軽減に配慮した工法・資材等の選択に努めます。 □浦添市特定調達品目数を増やし、優先購入を推進します。 □浦添市特定調達品目や、環境に配慮した製品に関する情報発信等を推進します。

エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □建築物は、設計・施工段階から節水や省エネルギー対策等の環境配慮を行い、その使用に当たって環境負荷の軽減を行う。 □冷暖房機器は適温に設定するよう心掛ける。 □公共施設での、太陽光発電システムや太陽熱温水器等の導入に努める。 □無駄な照明の消灯、OA 機器の効率的な利用を心掛ける。
基本目標4	地球環境の保全
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> □地球温暖化対策に関する計画の推進に努める。 □環境マネジメントシステムの推進による組織的な環境改善に努める。 □行政の率先的な取り組みとして、市の事務事業から排出される温室効果ガス削減に積極的に取り組む。 □開発指導の際には、地球環境の保全やヒートアイランド防止等の視点を取り入れる。 □温室効果ガスの吸収作用やヒートアイランド対策の視点から、施設の敷地内の緑化や、屋上緑化、壁面緑化等で緑を増やすよう心掛ける。
地球規模の環境問題	<ul style="list-style-type: none"> □フロン使用製品を廃棄するときは、法律に従って適正に処理する。 □硫酸化物や窒素酸化物の排出の抑制に努める。
基本目標5	協働・参画社会の構築
環境教育・環境学習	<ul style="list-style-type: none"> □職員の研修会・講習会等の機会を通じて、職員の環境保全、省エネルギー等の意識の普及啓発に努める。 □市民等を対象とした各種講座で、環境をテーマとした企画の実施に努める。 □小学校・中学校・高校等における環境教育の推進に努める。 □地域との連携を図りながら、学校や公共施設及び事業所敷地内等でのピオトープづくりに努める。
自発的な活動	<ul style="list-style-type: none"> □環境マネジメントシステムの推進による組織的な環境改善に努める。 □環境にやさしいライフスタイルの普及啓発を推進する。 □市民の自発的なリサイクル活動や環境保全活動を促す。 □清掃活動等の地域活動を促進し、環境配慮の普及啓発に努める。
協働	<ul style="list-style-type: none"> □県や近隣市町村等との広域的な連携に努める。 □広報誌等で、環境保全、省エネルギー等に関する情報発信と普及啓発に努める。

5-3 地域別行動指針

(1) 地域区分の考え方

地域別行動指針は、本計画の望ましい環境像「豊かな自然と文化を育み、次世代へつなぐ環境共生都市・浦添」を達成するため、地域の身近な環境課題を解決し、より良い環境の確保のために実践する、各主体共通の環境行動指針です。

地域区分については、生活環境、自然環境、都市構成の視点から整理し、自然的・社会的条件が共通する地域として、図に示す海岸地域、中央地域、丘陵地域の3地域に区分します。なお、本計画では3つの地域区分で行動指針を整理していますが、実際には明確な境界線によって各地域が区分されるのではなく、それぞれの境界域は重なり合ったものと捉えます。

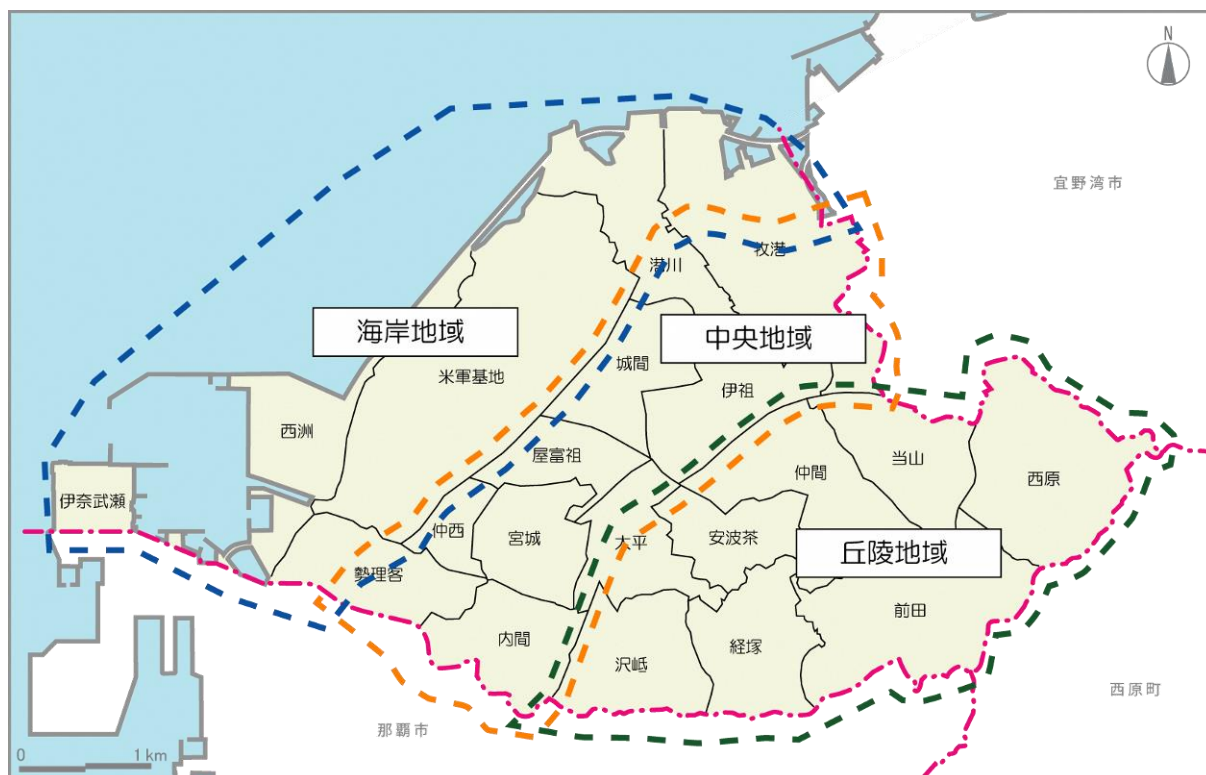


図 5-1 地域区分図

(2)地域別行動指針

1)海岸地域

①海岸地域の地域特性と現状

◆社会特性

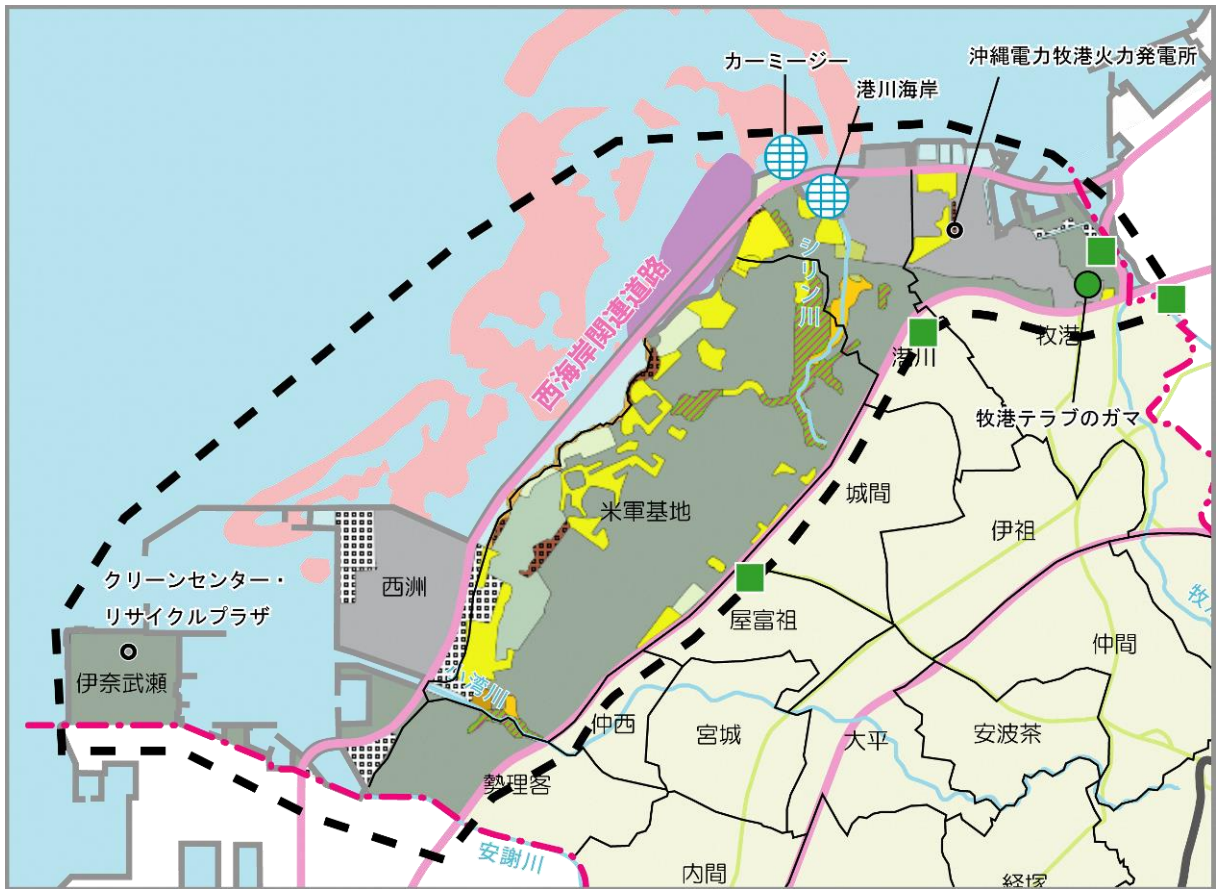
- 海岸と国道 58 号に囲まれた地域で、地域の北側の牧港、港川、城間の海岸沿いには電力会社等をはじめとする産業が立地し、地域の中央には米軍施設の牧港補給基地があり、地域の南側の西洲、勢理客には港湾を中心とした流通業務地区があります。
- 国道 58 号はきわめて多くの自動車が往来し、西洲・勢理客地域内の道路にも大量の自動車が流入しています。
- 西海岸関連道路及び西海岸開発事業が進められています。
- 環境の保全上重要な施設として、牧港に火力発電所、浦添宜野湾漁港、西洲・伊奈武瀬に浦添市クリーンセンター・リサイクルプラザ（ごみ処理施設）、那覇港湾浦添埠頭が立地しています。また同地区は物流拠点でもあるため多くの大型車両が往来しています。
- この他に「いなんせ斎苑」、「浦添市産業振興センター・結の街」、「国立劇場おきなわ」があります。

◆自然特性（地形、植生、生物多様性）

- 海岸地域の地形は、海岸沿いに海岸低地が広がっており、シリン川周辺は段丘面や石灰岩堤によって形成されています。
- 植生は、海岸沿いに海岸植生、ススキ草地が分布し、シリン川周辺はナガミボチョウジーヤブニッケイ群落が分布しています。
- 港川地先には、干潟とサンゴ礁に囲まれた礁池（イノー）が広がっており、海域生態系を形成しています。空寿崎のカーミージー周辺は、市民に古くから親しまれる自然海岸で、近年は地元自治会・学校の環境学習の場として活用されています。
- シリン川、小湾川沿いには樹林地が広がっており、ポットホール等の自然景観資源が見られます。

◆土地利用

- 港川、牧港、城間の大半は工業系の土地利用で、住居系は国道 58 号の西側の地区と空寿崎周辺に見られます。国道 58 号沿いは広域的な商業施設が立地しています。
- 地域の中心部は軍用地となっており、基地返還後には新都市形成ゾーンとして、リゾート・レクリエーションや新たな都市機能を持つ地域への開発が予定されています。
- 勢理客、西洲では工業・業務を中心とする土地利用が見られます。また、今後は港川地先一体を長期保養のできるリゾート・レクリエーションゾーンとして位置づけられています。



凡例							
行政区界	—	植生	ハドノキ-ウラジロエノキ群団	■	人と自然との共生	自然環境地点(湧水)	▲
地域界	—		ナガミボチョウジ-ヤブニッケイ群落	■		人と自然とのふれあいの場	●
国道	—		ナガバカニクサ-ススキ群団	■		散策路	■
ゆいレール	—		リュウキュウマツ群落	■	安心して健康で快適な都市	自動車騒音常時監視地点	■
河川	—		モクマオウ類植林	■		眺望地点	★
自然景勝地	サンゴ礁	■	ギンネム群落	■		文化財	●
	干潟	■			循環型社会、地球温暖化		○

注) 対象地域には、畑地、散策路、眺望地点は存在しない。

図 5-2 海岸地域の環境特性図

② 海岸地域の環境特性と課題

◆人と自然との共生

- 港川地先の礁池（イノー）、シリン川、小湾川沿いで見られる樹林地等、都市の中に残された自然環境の保全を推進し、うるおいある環境づくりが求められます。
- 港川地先の埋立等の開発の際には、周辺環境の改変等に留意し、海や河川の生物多様性を保全していく必要があります。

◆良好な生活環境の保全

- 火力発電所やごみ処理施設は環境の保全上重要な施設で、大気汚染の防止を始めとして公害の防止と環境負荷の低減に引き続き取り組む必要があります。
- 牧港自動車排ガス測定局における大気汚染状況は、二酸化窒素・浮遊粒子状物質ともに環境基準を達成しています。国道 58 号は自動車交通が多く、勢理客や西洲の商業地域内は大型車両も多く往来していることから、自動車排気ガスと騒音の対策が必要です。
- 港川海岸の水質は、平成 30 年度現在 COD 値は 1.8mg/ℓ となっており、近年は現状を維持しています。

◆循環型社会の構築

- 浦添市クリーンセンター・リサイクルプラザは市域全体の 4R を引き続き推進し循環型社会を実現するため、ますます重要な役割を担う市のごみ処理とリサイクルの拠点となります。
- 事業活動から発生する廃棄物の 4R を推進し、環境負荷を最小限に抑える取組が必要です。
- 工業が集積する海岸地域では、大量のエネルギーを消費しています。産業活動に伴う再生可能エネルギーの利用等によるエネルギー消費の抑制等が必要です。

◆地球環境の保全

- 温室効果ガスの削減を図る為、日常生活、産業活動における低炭素型ライフスタイル（ビジネススタイル）を推進する必要があります。

◆協働・参画社会の構築

- 水辺・海辺を生かした環境教育・環境学習の場の提供が得られるよう各主体との連携が必要です。
- リサイクルプラザを拠点とした環境にやさしいライフスタイルの提案等、環境保全活動を推進するための体制整備が必要です。

③海岸地域のめざす環境像

環境に配慮して産業活動を行い、
サンゴ、イノー、リーフ等の貴重な自然の保全を推進する地域

海に面し、工業、水産業が集積している海岸地域は、サンゴ、イノー、リーフ等の自然の状態に残された海岸があり、人と自然がふれあうレクリエーション地としての役割を担っています。今後は、港川地先の埋立等や軍用地の跡地利用による大規模な開発が予定されており、貴重な自然環境の保全に配慮した開発、産業活動を行っていきます。

④取組方向

- カーミージーやシリン川等の都市の中に残された自然環境の保全を推進し、人と自然とがふれあえる親しみやすい水辺・海辺の創出を図ります。また、港川地先の土地開発では、自然環境に配慮した開発を推進します。
- 大気汚染の対策や、海域の水質に影響を及ぼす事業所排水や生活排水の処理対策を推進します。
- 産業活動における廃棄物の4Rを推進します。
- 温室効果ガス等の環境負荷を低減し、地球環境にやさしいライフスタイルや事業活動を推進します。
- 水辺・海辺をはじめとする地域資源を活かした環境教育・環境学習を推進し、環境保全活動の促進を図ります。

⑤海岸地域の行動指針

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 樹林地の水源涵養機能の向上をめざし、樹林の保全に努める。 <input type="checkbox"/> 雨水浸透ます等の設置や敷地内緑化、透水性舗装の整備により雨水をできるだけ地下に浸透させるよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場による雨水の活用等、節水に心掛ける。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 海岸やシリン川等において、開発等を行う際は自然環境及び野生動植物の生育・生息環境への配慮を徹底する。 <input type="checkbox"/> 海域生態系の保全に努める。
環境配慮型 農 水 産 業	<input type="checkbox"/> 畑地等農地の保全、市民菜園等への活用に努める。 <input type="checkbox"/> 環境保全型農業に取り組み、肥料・農薬による周囲への影響に配慮し、適切に使用するよう努める。
自然との ふれあい	<input type="checkbox"/> 森・川・海辺・里浜等の自然空間の保全と育成を推進する。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 工場・事業場からの大気汚染を防止する。 <input type="checkbox"/> 駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。 <input type="checkbox"/> 自動車の導入・入替時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場からの悪臭防止に努める。

水質・土壌	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場からの水質汚濁を防止する。 □生活排水の処理対策を講じ、海、河川の水質向上に努める。 □工場・事業場による土壌汚染防止に努める。 □開発時の影響で赤土等が流出し自然環境に負荷を与えないよう、県条例を遵守し赤土等流出防止対策に努める。
騒音・振動	<ul style="list-style-type: none"> □商業施設、工場・事業場からの騒音・振動等を防止する。 □交通量の多い主要幹線道路の自動車騒音の改善に努める。
化学物質	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場で取り扱う化学物質の適正管理・適正使用を行い、事業者、市民、行政間のリスクコミュニケーションに努める。
快適な都市環境	<ul style="list-style-type: none"> □大規模開発時には環境影響評価を行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。 □マイカー通勤を減らし、公共交通機関や自転車を積極的に利用する。 □建築物の建設の際、周辺環境や都市景観に配慮し、良好な街並み形成に努める。 □海岸地域の地区計画及び景観地区指定への取組を推進する。 □学校、住宅地等の敷地内の緑地確保、屋上緑化や壁面緑化に努める。 □街路樹や公園緑地、公共施設の緑化等の推進、市民や事業者による保全緑地の維持管理やオープンスペースの確保、都市緑化の推進に努める。 □事業計画の策定や事業の実施に当たっては、歴史文化的遺産等との調和に配慮する。 □うらおそい歴史ガイドを養成し、次世代へ歴史文化の継承を行う。 □シリン川の樹林地に残る東空寿崎古墓群や井泉の保全に努める。
基本目標3 循環型社会の構築	
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> □スーパー等でのマイバック持参の普及や、簡易包装の促進等レジ袋削減に向けた取組に努める。 □工場等における廃棄物の発生をできるだけ抑制し、発生した廃棄物については再使用・再生利用に努める等ゼロ・エミッションに向けた取組を推進する。 □家庭系廃棄物の適正分別・回収を推進し、廃棄物の4Rに努める。 □リサイクルプラザを核とした市民の積極的参加による廃棄物の4Rに努める。
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> □廃棄物は野焼きせず、適正に処理する。 □廃棄物の不法投棄の監視を強化し、良好な環境づくりに努める。 □クリーンセンターの安定的・効率的な維持管理の推進と環境負荷の低減に努める。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> □必要性を十分に考慮し、品質や価格の他、環境のことも考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入する。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □太陽光、風力、バイオマス等による再生可能エネルギー源を積極的に活用するよう努める。 □日常生活、事業活動における省エネ、節電に努める。 □工場排熱の利用やコージェネレーションシステムの導入に努める。

基本目標4 地球環境の保全	
地球温暖化	<input type="checkbox"/> 温室効果ガスの発生を抑えるための低炭素型ビジネススタイルの実践を心掛ける。 <input type="checkbox"/> エコドライブ等を実施し、日常生活における身近なエコ活動を積極的に実践する。 <input type="checkbox"/> 温室効果ガスの吸収作用やヒートアイランド対策の視点から、庭やベランダ、屋上や壁面等を利用した緑化を心掛ける。
地球規模の環境問題	<input type="checkbox"/> フロン使用製品を廃棄するときは、法律に従って適正に処理する。 <input type="checkbox"/> 硫酸化物や窒素酸化物の排出の抑制に努める。
基本目標5 協働・参画社会の構築	
環境教育・環境学習	<input type="checkbox"/> 公園、工場・事業場、公共施設等の地域資源を活かした市民等を対象とした各種講座で、環境をテーマとした企画の実施に努める。 <input type="checkbox"/> 市民・事業者と連携し、地域における環境教育・環境学習の推進に努める。 <input type="checkbox"/> 地域と連携した学校の環境教育・環境学習プログラムの充実に努める。 <input type="checkbox"/> 地域との連携を図りながら、学校や公共施設及び事業所敷地内等でのピオトープづくりに努める。 <input type="checkbox"/> カーミーゼー等を活かした環境教育・環境学習の推進に努める。
自発的な活動	<input type="checkbox"/> 地域コミュニティにおける身近な環境美化、緑化等の自発的活動に努める。 <input type="checkbox"/> リサイクルプラザを拠点とした環境にやさしいライフスタイルの提案等、市民の自発的なリサイクル活動や環境保全活動を促す。
協働	<input type="checkbox"/> 公共施設等を環境保全活動の場として提供し、各主体が連携・協働できる体制づくりに努める。 <input type="checkbox"/> 各市民団体の活動拠点としてリサイクルプラザを活用し、環境保全活動を推進するための体制整備に努める。

2)中央地域

①中央地域の地域特性と現状

◆社会特性

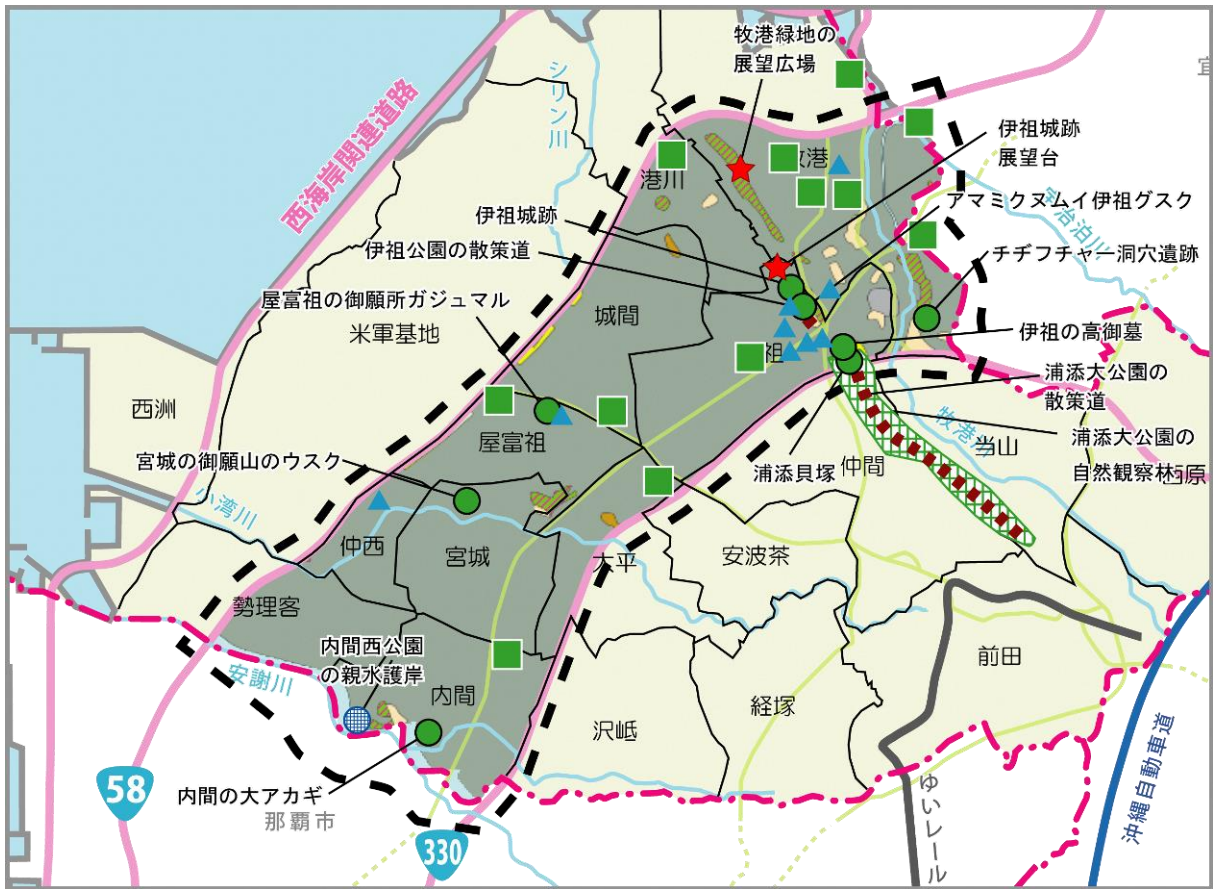
- 地域の北側に伊祖城跡があり、また中頭方西海道・普天満参詣道や牧港川沿いには多数の文化財が分布しています。
- 国道沿いには広域的な商業施設が立地し、市街地内の道路沿いには小売・飲食店、オフィスビルが立地しています。
- 主要道路から内側は市街地が広がっており、地域全体が人口集中地区（DID）となっています。
- 牧港地域は古くから商業地域として栄え、清涼飲料水工場の他、小規模工場・事業所が多く立地しています。
- 国道 58・330 号はきわめて多くの自動車が往来し、市街地内の道路にも大量の自動車が流入しています。
- 小学校が6校、中学校が3校、高等学校が2校と教育機関が多く立地し、また総合病院等の大規模医療施設もあります。

◆自然特性（地形、植生、生物多様性）

- 中央地域の地形は、牧港川沿いは海岸低地ですが、地域の東側は主に丘陵地や谷底低地、西側は段丘面によって形成されています。また、牧港と港川の境界には断層崖があり、石灰岩堤によって形成される特徴的な地形となっています。
- 地域の大部分は市街地であるため、公園や一部の斜面緑地等を除いて緑の分布状況はごくわずかです。植生は、断層崖でナガミボチョウジーヤブニッケイ群落が分布しています。

◆土地利用

- 地域の大部分は住居系土地利用を示しており、国道 58 号、パイプライン通り、サンパーク通り沿いは商業系の土地利用となっています。
- 国道 58 号とパイプライン通りに囲まれた地域は、商業施設、業務施設、工場、住宅等の混在する地域となっており、今後も生活と産業が共生した共生市街地（一般住宅地）として、位置づけられています。



凡例							
行政区界	—	植生	ハドノキ-ウラジロエノキ群団	■	人と自然との共生	自然環境地点（湧水）	▲
地域界	—		ナガミボチョウジ-ヤブニッケイ群落	■		人と自然とのふれあいの場	●
国道	—		ナガバカニクサ-ススキ群団	■		散策路	■
ゆいレール	—		リュウキュウマツ群落	■	安心して健康で快適な都市	自動車騒音常時監視地点	■
河川	—		モクマオウ類植林	■		眺望地点	★
自然景勝地	サンゴ礁	■	ギンネム群落	■		文化財	●
	干潟	■			循環型社会、地球温暖化		○

注) 対象地域には、サンゴ礁、干潟、海岸植生は存在しない。

図 5-3 中央地域の環境特性図

②中央地域の環境特性と課題

◆人と自然との共生

- 断層崖の斜面林や伊祖公園等の緑地以外にはまとまった緑地が少なく、公園、学校、住宅地の緑化を促進し、身近な緑の創出（花壇づくり、街路樹の植栽等）が必要です。
- 畑地は市街地の中にごくわずかに点在する程度です。農業後継者の減少に伴って使用されなくなった畑地等は農業施策と合わせて保全の措置が必要です。

◆良好な生活環境の保全

- 牧港川の中流・下流域に当たりますが、上流からの汚濁負荷により水質は良好ではありません。主な原因である事業所や家庭からの排水は、公共下水道又は合併処理浄化槽等による適正な処理を行い、水質改善を図る必要があります。
- 主要幹線道路に挟まれ、また市街地内にも多くの自動車が入り込んでおり、国道58号の自動車騒音は、要請限度は達成しているものの環境基準は未達成です。自動車排気ガスと合わせて騒音の低減を図るため、交通需要の管理や道路構造の改善等を推進する必要があります。
- 地域の中で住居系が多くを占めており、事業所・近隣騒音を防止し、良好な住環境と商業空間の両立を図る必要があります。
- 地域美化やオープンスペースの確保等による安全で快適な住環境の創出が必要です。

◆循環型社会の構築

- 廃棄物の発生抑制のため、商業施設でのマイバック運動をはじめとする取組が必要です。
- 家庭及び事業活動から発生する廃棄物の4Rを推進し、環境負荷を最小限に抑える取組が必要です。
- 日常生活、産業活動における再生可能エネルギーの利用普及等による対策等が必要です。

◆地球環境の保全

- 温室効果ガスの削減を図る為、日常生活、産業活動における低炭素型ライフスタイル（ビジネススタイル）を推進する必要があります。

◆協働・参画社会の構築

- 小・中学校区等の身近な地域コミュニティにおける環境美化、緑化等の活動の推進が必要です。
- 商業施設、業務施設、工場、住宅等が混在する環境を活かした環境保全活動の推進が必要です。

③中央地域のめざす環境像

生活と産業が共存し、安全で快適な住環境を形成する地域

住宅地と商業・業務地が混在する中央地域は、生活と産業が共存する共生市街地の役割を担っています。また、地域内にまとまった緑地が少ないことから、市街地の緑化を促進し快適な住環境の形成に努めます。

④取組方向

- 現存する緑地の保全をはじめ、住宅地等の身近な緑の創出を促進します。
- 事業所及び生活排水の適正処理を促進し、牧港川の水質向上を図ります。
- 主要幹線道路の自動車騒音を監視し、必要に応じて交通量の軽減や道路構造の改善を推進します。
- 商業施設でのマイバック運動等、廃棄物の4Rに努めます。
- 温室効果ガス等の環境負荷を低減し、地球環境にやさしいライフスタイルや事業活動を推進します。
- 住民や事業者等多様な主体による環境美化、緑化等の環境保全活動を推進します。

⑤中央地域の行動指針

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> 雨水浸透柵や透水性舗装を用いて、地下への浸透を図る。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場や学校による雨水の活用等、節水を心掛けながら水の適切な使用に努める。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 断層崖の斜面林や伊祖公園等の森林生態系の保全に努める。
環境配慮型 農水産業	<input type="checkbox"/> 畑地等農地の保全、市民菜園等への活用を努める。 <input type="checkbox"/> 環境保全型農業に取り組み、肥料・農薬による周囲への影響に配慮し、適切に使用するよう努める。
自然との ふれあい	<input type="checkbox"/> 森・川の自然空間の保全と育成を推進する。
基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<input type="checkbox"/> 工場・事業場からの大気汚染を防止する。 <input type="checkbox"/> 駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。 <input type="checkbox"/> 自動車の導入・入替時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場からの悪臭防止に努める。
水質・土壌	<input type="checkbox"/> 工場・事業場からの水質汚濁を防止する。 <input type="checkbox"/> 生活排水を適正に処理し、河川の水質向上に努める。 <input type="checkbox"/> 開発時の影響で赤土等が流出し、自然環境に負荷を与えないよう、県条例を遵守し赤土等流出防止対策に努める。
騒音・振動	<input type="checkbox"/> 商業施設、工場・事業場からの騒音・振動等を防止する。 <input type="checkbox"/> 交通量の多い主要幹線道路の自動車騒音の改善に努める。

化学物質	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場で取り扱う化学物質の適正管理・適正使用を行い、事業者、市民、行政間のリスクコミュニケーションに努める。
快適な都市環境	<ul style="list-style-type: none"> □大規模開発時には環境影響評価を行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。 □マイカー通勤を減らし、公共交通機関や自転車を積極的に利用する。 □建築物の建設の際、周辺環境や都市景観に配慮し、良好な街並み形成に努める。 □学校、住宅地等の敷地内の緑地確保、屋上緑化や壁面緑化に努める。 □街路樹や公園緑地、公共施設の緑化等の推進、市民や事業者による保全緑地の維持管理やオープンスペースの確保、都市緑化の推進に努める。 □伊祖城跡の周辺に残る歴史文化的遺産の保全に努める。 □事業計画の策定や事業の実施に当たっては、歴史文化的遺産等との調和に配慮する。 □うらおそい歴史ガイドを養成し、次世代へ歴史文化の継承を行う。
基本目標3	循環型社会の構築
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> □スーパー等でのマイバック持参の普及や、簡易包装の促進等レジ袋削減に向けた取組に努める。 □工場・事業場における廃棄物の発生をできるだけ抑制し、発生した廃棄物については再使用・再生利用に努める等ゼロ・エミッションに向けた取組を推進する。 □家庭系廃棄物の適正分別・回収を推進し、廃棄物の4Rに努める。
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> □廃棄物は野焼きせず、適正に処理する。 □廃棄物の不法投棄の監視を強化し、良好な環境づくりに努める。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> □必要性を十分に考慮し、品質や価格の他、環境のことも考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入する。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □太陽光、風力、バイオマス等による再生可能エネルギー源を積極的に活用するよう努める。 □日常生活、事業活動における省エネ、節電に努める。
基本目標4	地球環境の保全
地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> □温室効果ガスの発生を抑えるための低炭素型ビジネススタイルの実践を心掛ける。 □エコドライブ等を実施し、日常生活における身近なエコ活動を積極的に実践する。 □温室効果ガスの吸収作用やヒートアイランド対策の視点から、庭やベランダ、屋上や壁面等を利用した緑化を心掛ける。
地球規模の環境問題	<ul style="list-style-type: none"> □フロン使用製品を廃棄するときは、法律に従って適正に処理する。 □硫黄酸化物や窒素酸化物の排出の抑制に努める。

基本目標5 協働・参画社会の構築	
環境教育・ 環境学習	<input type="checkbox"/> 公園、工場・事業場、公共施設等の地域資源を活かした市民等を対象とした各種講座で、環境をテーマとした企画の実施に努める。 <input type="checkbox"/> 市民・事業者と連携し、地域における環境教育・環境学習の推進に努める。 <input type="checkbox"/> 地域と連携した学校の環境教育・環境学習プログラムの充実に努める。 <input type="checkbox"/> 地域との連携を図りながら、学校や公共施設及び事業所敷地内等でのビオトープづくりに努める。 <input type="checkbox"/> 伊祖城跡や湧水等を活かした環境教育・環境学習の推進に努める。
自発的な 活動	<input type="checkbox"/> 地域コミュニティにおける身近な環境美化、緑化等の自発的活動に努める。
協働	<input type="checkbox"/> 公共施設等を環境保全活動の場として提供し、各主体が連携・協働できる体制づくりに努める。

3)丘陵地域

①丘陵地域の地域特性と現状

◆社会特性

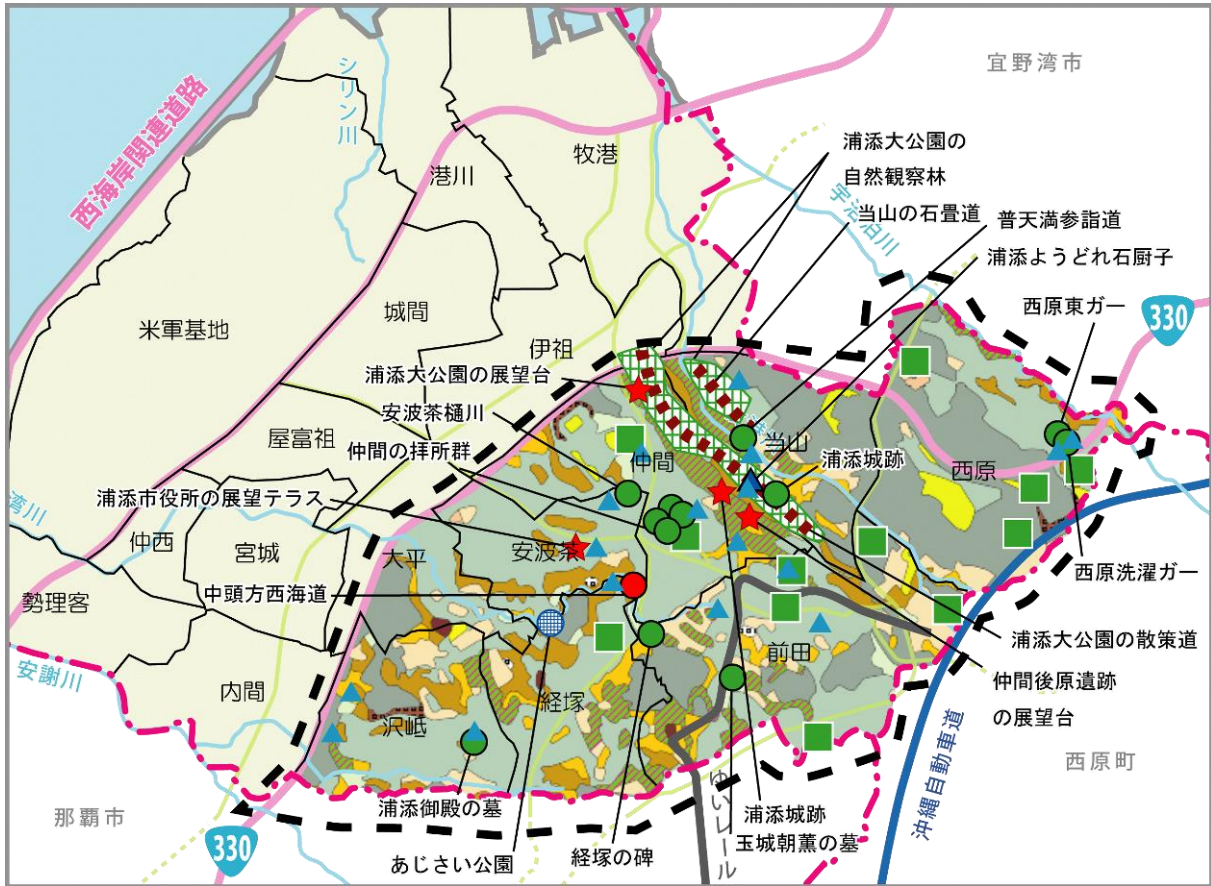
- 北側は国道 330 号、南側は那覇市、西原町に挟まれた地域で、西原、当山、仲間、前田、安波茶、大平、経塚、沢岬で構成されています。
- 多数の文化財が分布し、地域の北側に浦添城跡、中頭方西海道及び普天満参詣道沿いに周辺には多数の重要な文化財があり、歴史的空間整備が行われている地域です。
- 地域の南側で土地区画整理事業が進行中で、今後は住宅地として整備されます。
- 国道 58 号はきわめて多くの自動車が行来し、県道 38 号線・241 号線にも大量の自動車が入り込んでいます。
- モノレール（経塚駅、浦添前田駅、てだこ浦西駅）が開業し、てだこ浦西駅周辺地域では自立・分散型エネルギーシステムを導入したスマートシティ型のまちづくりに取り組んでいます。
- 主な公共施設は、市庁舎、てだこホール、図書館、美術館、消防署、沖縄国際センター等、行政・文化施設が集積する地域です。

◆自然特性（地形、植生、生物多様性）

- 浦添大公園、浦添墓地公園の斜面林は断層崖となっており、石灰岩堤が見られます。それ以外は主に、丘陵地と谷底低地から形成されています。
- 浦添大公園と、地域の北側と南側に斜面緑地が残されています。植生は、牧港川流域にナガミボチョウジーヤブニッケイ群落が分布しています。また、当山、前田、沢岬には畑地が点在しており、小湾川の中流周辺でススキ草地が見られます。
- 浦添大公園から連なる斜面緑地一体では森林生態系が形成されています。

◆土地利用

- 丘陵地域は、農地、原野が市域内で最も多く、浦添大公園一帯のクサティの森やクニンドーの森等によって形成されています。その他の大部分は住居系土地利用によって形成されていますが、県道 38 号線、県道 153 号線、県道 241 号線沿いは商業・業務施設が見られます。
- 浦添大公園周辺は市街化調整区域に指定されており、浦添大公園と土地区画整理地区をはさんだ北側と南側に、旧集落と開発団地を中心に閑静な住宅地が広がっています。
- 歴史・文化拠点が位置するエリアとして整備が進められています。
- 浦添城跡周辺は景観重点地区に指定され、地域住民と協働した景観の保全が進められています。



凡例							
行政区界	—	植生	ハドノキ-ウラジロエノキ群団	■	人と自然との共生	自然環境地点（湧水）	▲
地域界	—		ナガミボチョウジ-ヤブニッケイ群落	■		人と自然とのふれあいの場	●
国道	—		ナガバカニクサ-ススキ群団	■		散策路	■
ゆいしール	—		リュウキュウマツ群落	■	安心して健康で快適な都市	自動車騒音常時監視地点	■
河川	—		モクマオウ類植林	■		眺望地点	★
自然景勝地	サンゴ礁	■	ギンネム群落	■		文化財	●
	干潟	■			循環型社会、地球温暖化		○

注) 対象地域には、サンゴ礁、干潟、海岸植生は存在しない。

図 5-4 丘陵地域の環境特性図

②丘陵地域の環境特性と課題

◆人と自然との共生

- 浦添大公園から、前田・沢岬を取り囲む斜面緑地はクサティ森として人々にうるおいとやすらぎを与えるとともに、貴重な生物の生育空間にもなっています。また、那覇市に隣接する安謝川沿いの樹林地はクニンドーの森公園として確保されており、これらの豊かな緑の保全、育成が必要です。
- 沢岬、仲間、前田に分布する畑地は、雨水浸透や生物の生息空間として重要な役割を担っています。農業後継者の減少に伴って使用されなくなった畑地等は、農業施策と合わせて保全の措置が必要です。
- 浦添大公園内の牧港川では親水護岸が施されていますが、水質の状態が悪いため、水質改善や生物の生息空間の創出を図る等、市民等が憩える河川環境の創出が求められます。
- みどりや自然と調和した土地区画整理事業と市街地開発が必要です。
- 歴史・文化ゾーンとして、地域住民と協働した景観の保全を推進する必要があります。

◆良好な生活環境の保全

- 牧港川上流の水質観測点では環境基準を達成しておらず水質汚濁が著しいため、水質浄化を図る必要があります。主な原因である事業所や家庭からの排水は、公共下水道又は合併処理浄化槽等による適正な処理が必要です。
- 住宅地では地域美化やオープンスペースの確保等による快適な住環境の創出が必要です。
- 浦添城跡周辺は、史跡や井泉等の文化財が多数分布し、歴史文化的街並みが見られる地域であり、住宅地等でも歴史文化遺産と調和した景観の創出が求められます。
- モノレール開業に伴い交通環境が大きく変わることから、良好な住環境の確保が引き続き求められています。

◆循環型社会の構築

- 原野等で不法投棄が確認されており、これらの監視体制を強化する必要があります。
- 家庭及び事業活動から発生する廃棄物の4Rを推進し、環境負荷を最小限に抑える取組が必要です。
- 日常生活、産業活動における再生可能エネルギーの利用普及等による対策等が必要です。

◆地球環境の保全

- 温室効果ガスの削減を図る為、日常生活、産業活動における低炭素型ライフスタイル（ビジネススタイル）を推進する必要があります。

◆協働・参画社会の構築

- 公共施設等を利用した環境教育・環境学習の場の提供が必要です。
- 浦添大公園や浦添城跡周辺の地域を活用した各主体の連携による環境保全活動の推進が求められます。

③丘陵地域のめざす環境像

行政・歴史文化の中心を担い、豊かな水と緑を育み環境に配慮する地域

国道 330 号以南の丘陵地域は、行政・文化施設が集積し、行政・文化の中心を担っています。

また、浦添大公園等の豊かな緑が広がっており、緑地の保全と育成を推進し、快適な住環境の創出を図ります。

④取組方向

- 地域内に広がる緑地の保全・育成に努めます。
- 事業所及び生活排水の適正処理を促進し、牧港川の水質向上に努め、市民等が憩える河川環境の創出を図ります。
- 浦添城跡周辺は、歴史文化遺産と調和した景観の創出が求められます。
- 廃棄物の4Rの推進、不法投棄の監視強化に努めます。
- 温室効果ガス等の環境負荷を低減し、地球環境にやさしいライフスタイルや事業活動を推進します。
- 浦添大公園や公共施設をはじめとする地域資源を活かした環境教育・環境学習を推進し、環境保全活動の促進を図ります。
- てだこ浦西駅周辺地域のスマートシティ型まちづくりを推進します。

⑤丘陵地域の行動指針

基本目標1 人と自然との共生	
水循環	<input type="checkbox"/> クサティ森、クニンドーの森をはじめとする樹林地の水源涵養機能の向上をめざし、樹林の保全に努める。 <input type="checkbox"/> 雨水浸透ます等の設置や敷地内緑化、透水性舗装の整備により雨水をできるだけ地下に浸透させるよう心掛ける。 <input type="checkbox"/> 工場・事業場や公共施設による雨水の活用等、節水に心掛ける。
生物多様性	<input type="checkbox"/> 浦添大公園周辺の森林生態系の保全に努める。
環境配慮型農水産業	<input type="checkbox"/> 畑地等農地の保全、市民菜園等への活用に努める。 <input type="checkbox"/> 環境保全型農業に取り組み、肥料・農薬による周囲への影響に配慮し、適切に使用するよう努める。
自然とのふれあい	<input type="checkbox"/> 森・川の自然空間の保全と育成を推進する。

基本目標2 良好な生活環境の保全	
大気・悪臭	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場からの大気汚染を防止する。 □駐停車時のアイドリングストップの推進、エコドライブの実施に積極的に取り組むよう努める。 □自動車の導入・入替時は、低公害・低燃費車を購入するよう心掛ける。 □工場・事業場からの悪臭防止に努める。
水質・土壌	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場からの水質汚濁を防止する。 □生活排水の適正処理対策に努め、牧港川をはじめとする河川の水質向上に努める。 □生活排水を適正に処理し、河川の水質向上に努める。 □開発時の影響で赤土等が流出し、自然環境に負荷を与えないよう、県条例を遵守し赤土等流出防止対策に努める。
騒音・振動	<ul style="list-style-type: none"> □商業施設、工場・事業場からの騒音・振動等を防止する。 □交通量の多い主要幹線道路の自動車騒音の改善に努める。
化学物質	<ul style="list-style-type: none"> □工場・事業場で取り扱う化学物質の適正管理・適正使用を行い、事業者、市民、行政間のリスクコミュニケーションに努める。
快適な都市環境	<ul style="list-style-type: none"> □大規模開発時には環境影響評価を行い、事業実施による環境負荷の回避・低減に努める。 □マイカー通勤を減らし、公共交通機関や自転車を積極的に利用する。 □建築物の建設の際、周辺環境や都市景観に配慮し、良好な街並み形成に努める。 □丘陵地域の地区計画及び景観地区指定への取組を推進する。 □学校、住宅地等の敷地内の緑地確保、屋上緑化や壁面緑化に努める。 □街路樹や公園緑地、公共施設の緑化等の推進、市民や事業者による保全緑地の維持管理やオープンスペースの確保、都市緑化の推進に努める。 □浦添城跡の周辺に残る歴史文化的遺産の保全に努める。 □事業計画の策定や事業の実施に当たっては、歴史文化的遺産等との調和に配慮する。 □うらおそい歴史ガイドを養成し、次世代へ歴史文化の継承を行う。 □スマートシティ型まちづくりを推進する。
基本目標3 循環型社会の構築	
資源の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> □スーパー等でのマイバック持参の普及や、簡易包装の促進等レジ袋削減に向けた取組に努める。 □工場・事業場における廃棄物の発生をできるだけ抑制し、発生した廃棄物については再使用・再生利用に努める等ゼロ・エミッションに向けた取組を推進する。 □家庭系廃棄物の適正分別・回収を推進し、廃棄物の4Rに努める。
廃棄物の適正処理	<ul style="list-style-type: none"> □廃棄物は野焼きせず、適正に処理する。 □廃棄物の不法投棄の監視を強化し、良好な環境づくりに努める。
グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> □必要性を十分に考慮し、品質や価格の他、環境の事も考え、環境負荷ができるだけ小さい製品やサービスを、環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入する。
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> □太陽光、風力、バイオマス等による再生可能エネルギー源を積極的に活用するよう努める。 □日常生活、事業活動における省エネ、節電に努める。

基本目標4 地球環境の保全	
地球温暖化	<input type="checkbox"/> 温室効果ガスの発生を抑えるための低炭素型ビジネススタイルの実践を心掛ける。 <input type="checkbox"/> エコドライブ等を実施し、日常生活における身近なエコ活動を積極的に実践する。 <input type="checkbox"/> 温室効果ガスの吸収作用やヒートアイランド対策の視点から、庭やベランダ、屋上や壁面等を利用した緑化を心掛ける。
地球規模の環境問題	<input type="checkbox"/> フロン使用製品を廃棄するときは、法律に従って適正に処理する。 <input type="checkbox"/> 硫黄酸化物や窒素酸化物の排出の抑制に努める。
基本目標5 協働・参画社会の構築	
環境教育・環境学習	<input type="checkbox"/> 浦添大公園、浦添城跡、公共施設等の地域資源を活かした市民等を対象とした各種講座で、環境をテーマとした企画の実施に努める。 <input type="checkbox"/> 市民・事業者と連携し、地域における環境教育・環境学習の推進に努める。 <input type="checkbox"/> 地域と連携した学校の環境教育・環境学習プログラムの充実に努める。 <input type="checkbox"/> 地域との連携を図りながら、学校や公共施設及び事業所敷地内等でのビオトープづくりに努める。
自発的な活動	<input type="checkbox"/> 地域コミュニティにおける身近な環境美化、緑化等の自発的活動に努める。
協働	<input type="checkbox"/> 公共施設等を環境保全活動の場として提供し、各主体が連携・協働できる体制づくりに努める。